

...ボランティアがつくるニュースレター...

# トラストネットワーク

発行…トラスト通信ボランティア  
問合せ…(-財)世田谷トラストまちづくり

〒156-0043 世田谷区松原 6-3-5

Tel: 03-6379-1620 Fax: 03-6379-4233

<http://www.setagayatm.or.jp/>



フラワーランド春の花まつり

No. 80 2018年6月

2018

5月12日・13日に「フラワーランド春の花まつり 2018」が開催されました。12日午前中には、テレビ（ケーブルテレビ・サタデーイツコム）の取材もありました。



まず、両日を通じて行われたのは、「スタンプラリー」「ミニ苔玉づくりの実演」「菊づくりの相談」「みどり33募金苗頒布」「ハーブティーコーナー」でした。

体験コーナー（午前と午後の2回実施）は12日が「自分で作る培養土と草花苗のさし芽」「たねダンゴづくり」、そして「バラの楽しみ方（バラの花の説とバラ園の説明）」。13日が「春の

ミニブーケづくり」「夏を涼しく彩る朝顔のポット上げ」、そして「ガーデンツアー（園内の草花等の説明）」が行われました。

来園者の方々が楽しみにしているのは「みどり33募金苗頒布」で、カトレア、デンドロビウム、ベコニア、ムシトリナデシコなど30数種類が並べられました。やはり、花の咲いているものが喜ばれるのは当然ですが、花のついていないミニ苔玉まで品切れになったのにはビックリ。

スタンプラリーは、園内の8ヶ所でスタンプを押してもらうのですが、子供ばかりでなく、大人の方々も参加していました。

体験コーナーの「自分で作る培養土と草花のさし芽」は、まず、参加者がペットボトルの上部を切り離した器に、バケツの中の赤玉土、バーミキュライト、クンタンを1：1：0.5の割合で入れ、それを鉢皿に移してよく混ぜて培養土を作ります。計量カップがないので、大人も子供も用土の量を目分量で決めさせられるため、真剣そのものでした。できた培養土は、2つのポットに移し、次はゼラニウム、アジサイ、ローズマリー等の芽のうちから2種類を選び、さし芽です。さし芽が深すぎたり、浅すぎたりして会員に手直しをしてもらい、最後にさし芽をしたポット2つと、培養土の残りをお土産にもら

## 80号の目次

春の花まつり 2018	1
せたがや散歩道	3
里山の春をさがそう	6
かわらばん	8

い、満足そうでした。

次の「たねダンゴづくり」は、鉢皿とテニスボール程度の大きさに丸めた用土（ケト土と赤玉土を7：3で混ぜたもの）を渡されました。まず、用土を棒状に延ばして10個に分け、中に肥料（マグアンプとミリオン）を入れて丸めました。次は、草花の種（マリーゴールドとジニア・プロフェュジョンの2種類）とハイフレッシュをダンゴにまぶし、安定させるために若干押しつぶしました。8個を公園の花壇に埋め、2個は持ち帰るのですが、子供たちも素手で泥遊びを楽しんでいました。

「バラの楽しみ方」では、バラ園担当の会員が、園内にある「バラ園」の40種近くに及ぶバラについて、名前、花の形、色、香り等のほか、バラ園に植えられている矢車草、ムシトリナゲシコ、カモミール等について、その効用を詳しく楽しく説明してくれました。

「ミニ苔玉づくりの実演」は人気があり、展示用の苔玉を欲しいという見学者も何人かいたようです。

2日目(13日)の体験コーナーの「春のミニブーケづくり」は一番の目玉で、体験コーナーの定員が各回15名なのに、ブーケづくりだけは20名に増員したのですが、それでも受付の時刻には定員をオーバーする列ができました。

花は、公園内に咲いているバラ、ニ



ゲラ、ヤグルマソウなど16種類。バラの花は1本、その他の花を6本、さらにギボシ、クリスマスローズなど9種類の葉物から数本を選びます。新鮮な美しい花を貰えるので、幼児から高齢者まで希望者が殺到。花は、赤とか黄色・紫等の鮮やかな色のものに人気が集まりましたが、花の種類が多いだけに、選ぶのに一苦労。友の会会員のアドバイスを受け、やっと、選んだ7本の花と葉物を会員に渡しラッピングしてもらおうと早速、家族で記念写真の撮影。皆さん満足そうでした。



「朝顔のポットあげ」は、朝顔の苗を掘り起こしポットに植え替え、持ち帰りができるため、こちらもあり、参加者も幼児から高齢者までさまざま。まず、友の会会員から、持ち帰る朝顔の花の色と形、管理の仕方、種の取りかた等の説明を受け、ポット2つと箸を渡されました。

いよいよ朝顔を苗床から掘り起こす作業。幼児と高齢者では行動が違いました。幼児は会員の指導通り思い切りよく2本の箸を苗床に突き刺すのですが、深く差しすぎ、箸の頭の部分を傾けて苗を掘り起こすことができません。高齢者は苗を選ぶのか、2回位声を掛けられてから箸を突き刺す場合が多かったようです。

また、「ガーデンツアー」は、案内者が、園内の主な植物について丁寧に説明をしていました。

2日目は、午後2時ころから雨が降り出しましたが、皆さん花や苗を手に満足そうに帰宅されました。

# せたがや<sup>え</sup>散歩道

## てたくぶつく〜用賀・馬事公苑コース

### ① 玉電用賀駅跡 用賀4-3

明治40年(1907)4月に道玄坂上-玉川間の玉川電車(タマデン)が路面電車として開通しました。



昭和44年(1969)

には廃止され、現在は地下鉄が開通しています。石碑のある道路に線路が敷設されていたのが、地下の線路に代わっていきました。

### ② 真福寺 用賀4-14



約400年前に創建され、宗派は真言宗、本尊は大日如来です。山門を入ると左側に芭蕉の句碑\*があります。

\* 道の辺の本槿は馬に喰はれけり

1684年秋、野ざらし紀行の旅、大井川近くにて。

### ⑤ 延命地蔵 玉川台2-3

大山道はここから瀬田に向かって二股に分かれています。いずれの道も二子の渡しにつながっています。この地蔵尊は安永6年(1777)用賀村の女念仏講の人々によって建てられました。



⑦ 向大橋 玉川台1-17  
谷沢川にかけられた橋の一つ、現在この場所に東京都下水道局により雨水暫定貯留施設が設置されています。



### ⑧ 向稻荷 用賀1-26



この地域の住民たちが江戸後期に創建したとの記録があります。狐親子?の像が珍しくまた面白い。

### ⑬ 用賀神社 用賀2-16

明治41年に合祀された八幡社は天正年間に鎌倉の鶴岡八幡宮より分霊されたといわれています。祭神は天照皇大神、応神天皇、菅原道真等です。



### ⑭ 大山道追分 用賀3-14

大山道の三叉路に当たる場所がこの追分です。この場所に高さ1.2mの庚申塔があり、右は江戸道、左は世田谷四谷道と書いてありました。建てられたのは文政10年(1827)、この三叉路の辺りは旅館、酒店、料理屋等が並ぶ繁華街でした。



⑩無量寺 用賀4-20



用賀の観音様と呼ばれることもあるようです。開山は今から約400年前、光蓮社明誉寿広和尚によるものです。現在の宗派は浄土宗。境内には緑が多く、本堂前の大銀杏は樹齢100年を超えるとか。

⑪庚申塔 用賀4-26

文元5年(1740)、庚申の年に建てられたもので、青面金剛像とその下には三匹の猿が彫ってあります。用賀村では庚申塔は主に道標の役割を果たしていたようです。



⑫旧玉川村村長邸 上用賀3-2

旧玉川村の金子村長邸です。玉川村は明治22年(1889)、用賀、瀬田、野良田、上野毛、下野毛、尾山、等々力、奥沢の8ヶ村が合併して出来た村です。明治45年から12年間村長を務めました。辞任後も玉川全円耕地整理事業推進の中心的役割を務めました。



⑬旧用賀名主邸 上用賀3-11

天明6年から明治5年まで四代(88年)に亘って

名主を務めた飯田家の邸宅。

⑭用賀本村稻荷 上用賀3-13

この辺りは用賀の本村と呼ばれていました。明治末期の神社統合により、この地にあった天神さまなどは用賀神社に合祀されましたが、稲荷神社だけが取り残されました。村人たちは本村稲荷と名付け守ってきました。



⑮天神溜池跡 上用賀1-8

江戸時代の中期に村人たちが水田用水として作った池の跡です。面積は約1,000坪ほどあり、谷沢川の水源としての役割も果たしていました。昭和10年頃埋められ一部が児童公園となりました。



⑯馬事公苑 上用賀2-1

JRA馬事公苑は施設整備工事のため2017年1月より休苑しています。工事期間中、東京2020オリンピック・パラリンピックの馬術競技を開催予定です。再開は2022年秋ころの予定です。(JRA馬事公苑ホームページより)

⑰谷沢川遊水池跡 上用賀6-22

全長3,800メートルの谷沢川の水源の一つ。池の水は湧水というより、世田谷通りの北側から流れ出た小川の水が溜まったとも言えます。

⑱三峰神社 上用賀6-4

社はこの地域の三峰講の人たちによって守られています。毎年代表者が交代で秩父の本社まで参拝に行き盗賊除、



火除、諸災除御守護と神札を受取り講に加入している人々に配ります。

③⑩ 砦パークブリッジ 上用賀5-14

環八通りを跨いで砦公園と接続する快適な歩道橋です。お年寄りや障害のある人誰もが安心して通れる橋です。1995年完成しました。

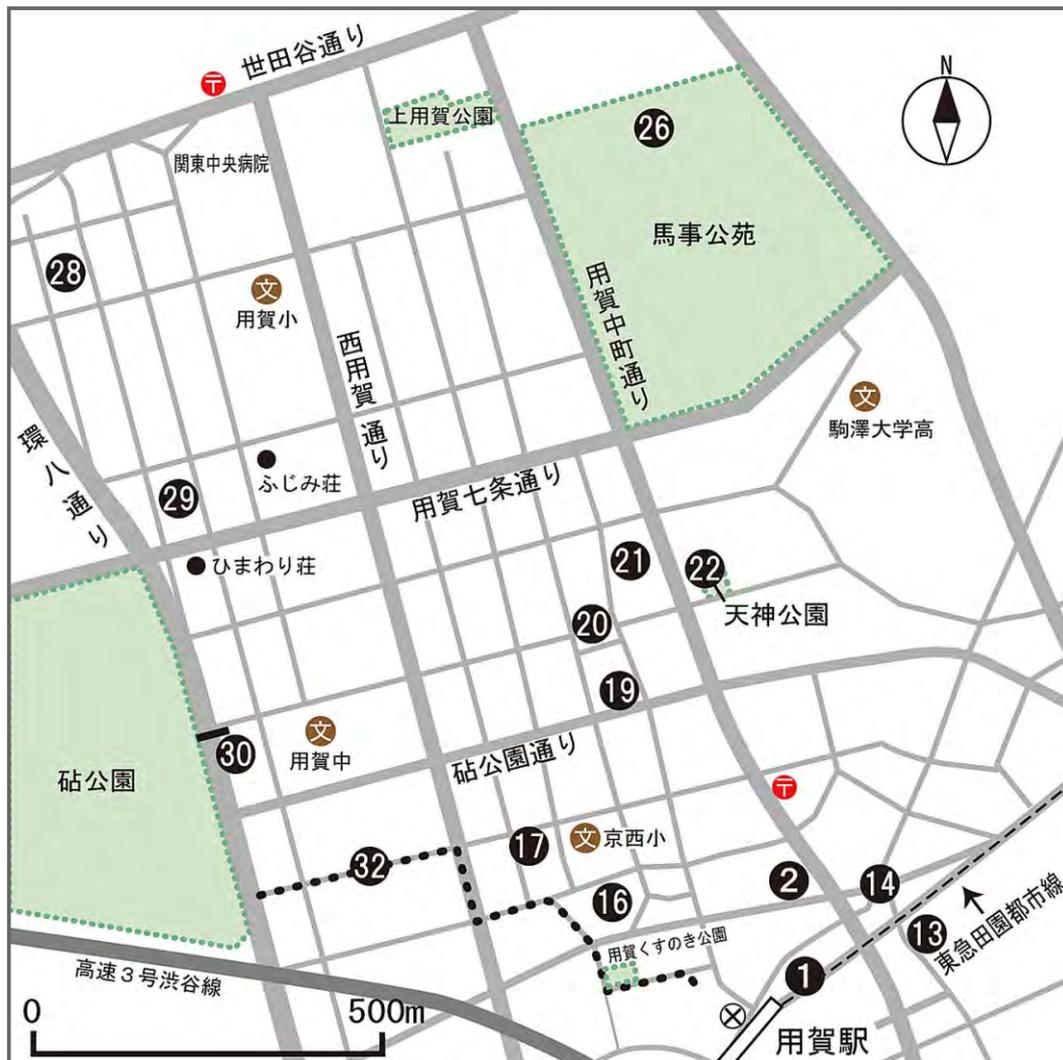


③⑫ 用賀いらか道 上用賀5-7

“楽しく歩けるまちづくり”の一環として昭和61年(1986)に造られました。用賀駅から砦公園まで続く約1Kmの道の所々には噴水やベンチ、木陰など様々な工夫がされています。



本紙てくたくぶっくシリーズは今号で終了となります。1年余りの間、ご愛読頂き有難うございました。



## 春のみつ池体験教室 ～里山の春をさがそう～

4月28日、午前10時から（一財）世田谷トラストまちづくりと成城みつ池を育てる会との共催による「春のみつ池体験教室」が、「成城みつ池緑地」で開催されました。当日の参加者は、13組、27名でした。



参加者は、管理小屋の裏手（南側）に集合し、最初に（一財）世田谷トラストまちづくりの担当者と成城みつ池を育てる会の会長の挨拶の後、「成城みつ池緑地」の歴史について説明がありました。昭和49年にある不動産会社がみつ池の敷地の中にテラスハウスの建設を計画し、地質調査を行ったところ、約1,500年前の横穴墓を発見し4体の人骨を収容しました。調査の結果、この地域には、古代から長期にわたって人が住んでいたことが居住跡や横穴の存在で確認され、多くの土器等が発見されました。\*

昭和51年には、区民による遺跡保存の署名運動が始まり、東京都は昭和53年にその重要性を認め、都市部では上野桜木一丁目地内等に次ぐ4番目の「特別緑地保全地区」に指定しました。

同時に世田谷区でも区条例による特別保護区に指定し、周辺に柵を設けて一般の立ち入りを禁止しました。そして、年に4回体験教室というかたちで、

一般の方の見学等を認めているということでした。

本日の体験教室は、午前中の2時間が、植物等の観察、午後の1時間は雑草等の駆除作業です。

まず、参加者を3班に分け、それぞれにリーダーとボランティアの会員がつき、観察開始。観察用の小径を歩いて、高台から野川に向かって降ります。緑地の中は巨木が生い茂り、日光もあまり差し込まないような林ですが、最初に見つけたのは絶滅危惧種のキンランとギンランでした。近くには、準絶滅危惧種のエビネの群落とサイハイランもありました。これらのランは、ラン菌がないと育たないのだそうです。ノシランも、青紫の美しい色の実をかうじて残していました。

竹の柵で囲われた落葉溜めには、1m以上もある青大将(へび)が住んでいたとか、管理小屋の裏のバケツに保護されていました。カブトムシの幼虫などが沢山いるためでしょう。



最初の池は、現在干あがっており、カサスゲの密集地。以前は、どこにでも見られたカサスゲの大群落は、今では東京都23区内では、みつ池以外では見られなくなったとか。昔、農家の人達は、笠や蓑(雨具)を作る材料にしたそうです。

また、東京都では、絶滅危惧種と

なっているハンノキも生えていました。

次は、ヒメコウゾ（コウゾ）で、紙の原料になる木。小さな花が咲いていたが、6月頃、モミジイチゴのような実がなり、甘いとか。それから、海水魚と同じ名前のゴンズイ。幹に灰褐色の斑点がある灌木です。ここからは、急峻な小径の登り。途中、シュンランの株があり、なんと、実がなっていました。まだ、若い実で、ナンバンギセル（植物）の花を思わせるような実でした。ここには、180株ほどのシュンランがあるのですが、実をつける株は珍しいでしょう。

今度は、作業小屋の裏の落葉溜めの中に住む昆虫の観察です。カブトムシの幼虫をはじめ、約10種類の昆虫が、小さな瓶に入れられていました。第3班は、若夫婦2組で、それぞれ、小学校低学年のお嬢さんと幼稚園児らしい男の子でしたが、なんと女の子も男の子も昆虫に夢中。カブトムシをつまみ上げたり、顕微鏡で昆虫を覗いたり、藪から3cm近くもある青虫を見つけてきて、皆で手の平に乗せて動きを観察。昆虫観察の後はみつ池に。途中、宅地開発中止の原因となった横穴墓の横を通りましたが、現在は、小さな標識があるだけでした。

みつ池の名前は、崖下の湧水を田んぼの水に利用していたのですが、湧水の水温が17℃前後で稲の生育には水溫が低すぎるので、池を造り一時、水を溜めて水溫を上昇させまし



た。その池が三つあることによるとか。

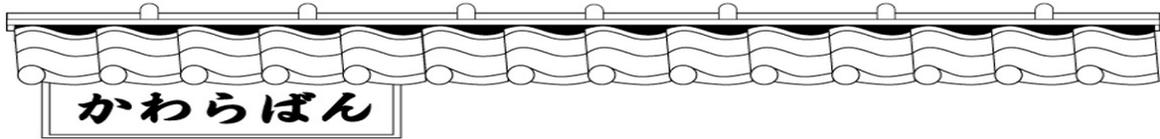
今でも、湧水地が三つ。清水が湧き出しており、ワサビなども生えていました。ここの清流で有名なのはゲンジボタルですが、サワガニなど沢山の水生生物が生息しています。

ボランティアの会員の方々等が朝早くから、絶滅危惧種のシマアメンボなど10種類近くの水生昆虫を捕獲し、小さな瓶に入れて、説明をしてくださいました。子供達も興味津々。オニヤンマーのヤゴを直接手でつかみ、餌を捕獲するために延す下あごを手で伸ばしたりしていました。これで、午前の部は終わり、竹のコップによる野草茶のサービスを受けながら皆で昼食。

昼休みには、孟宗竹のタケノコの皮をむいたり、タケノコを縦割りにして中の構造を確認したりしました。

午後は、入口の横の林に生えているハルジオン、カラスノエンドウなどの駆除作業。大勢の人で行ったため、30分強の作業で終了しましたが、作業中止の合図の際に大声が聞こえたので、飛んで行ってみると15cmもあろうかと思われる大ムカデ。皆さん怖がりもせず、興味津々という顔で覗いていました。今日は、昆虫に縁のあった日でした。最後に、挨拶と記念写真を撮り、散会となりました。

\* 参考資料：成城みつ池緑地 植物誌



## かわらばん

### スギ花粉症がなくなる！

冬の終わりから春にかけて多くの方が悩まされるのが花粉症です。その原因になるのは、スギ、ヒノキ、イネ、ブタクサ、ヨモギなどの花粉ですが、最も多くの人を悩ませるのはスギ花粉です。

高度成長期に大量に植林されたスギの人工林は日本の国土の1割ほどを占めており、スギ花粉の猛威を簡単に防ぐことはできません。そこで、原因を元から断つために、少花粉や無花粉のスギの苗木の植林が進められています。少花粉のスギの開発が始まったのは1990年代はじめで、森林総合研究所（茨城）の発表によると、これまでに少花粉のスギ142品種、無花粉のスギ5品種が開発されており、北海道と沖縄を除いた都府県で苗木の生産と植栽が進められているそうです。

一般的なスギでは雄花に花粉が詰まっていますが、少花粉スギでは雄花が少なく、無花粉スギの雄花には花粉がまったくありません。少花粉や無花粉のスギは、花粉の少ない木を親木として選んで種子をとって育てる地道な作業を何回も繰り返して、遺伝的に花粉が少ない新種を作り出していきます。

東京都では、2006年から「花粉の少ない森づくり運動」を始めており、これまでに都内のスギ林610ヘクタールを少花粉のスギ（花粉量が一般のスギの1%以下）に植え替えています。しかし、都内だけでもスギ林は約2万ヘクタールほどあるので、全体を植え替えるには急いでも100年単位の時間がかかる計算になります。

春にスギ花粉が飛ばなくなる日がやがてやってくるでしょうが、まだしばらくは花粉症に悩まされることになりそうです。

### いきものさんぽ

彩草会

#### ワサビ

世田谷でワサビの生育を見ることが出来ます。みつ池の湧水で毎年花が咲きます。



### 編集後記

#### トラストまちづくりが梅丘へ移転

一般財団法人世田谷トラストまちづくりが、北沢タウンホールから梅ヶ丘駅前の旧北沢保健福祉センターに移転し、5月7日より業務を開始しました。

新事務所は羽根木公園の南側、赤堤通りに接して位置し、近くには梅丘図書館や、北沢警察署、北沢税務署、梅丘中学校等があります。

赤堤通りを西側に進んだ場所では保健センターを含む「区複合棟」と介護老人保健施設を営む「民間施設等」が建設中で、来年以降、順次開設予定です。梅ヶ丘駅周辺の梅丘商店街は活気に溢れ、食事やショッピングに適していますが、更に近隣の小学校の生徒たちの避難所の役割も担い、地域の安全・安心を心がけています。

#### 80号作成に関わったメンバー

大泉定雄 片寄正史 北嶋明子

須永澄子 野武一郎 宮下正雄